

## 成果と課題

### 【成果】

○現行の特別支援学校学習指導要領（高等部）では、「キャリア教育の推進」、「産業現場等における長期間の実習を取り入れる」等が新たに明記され、各校で地域等と連携した実際的な指導が充実してきている。

【地域と協働した取組の例】高齢者のグループホーム等にでかけ、カフェをサービスする学習に取り組むなど

○児童生徒が目的意識をもって学習意欲を高めたりすることのできる技能検定等が開発され、地域の実態に応じた技能検定大会などが実施されている。

【例】宮崎県特別支援学校チャレンジ検定など

### 【課題】

【文部科学省キャリア教育・就労支援等の充実事業成果報告書から】

・小学部の児童や知的障害の程度が重度の児童生徒が取り組めるように段階的に級を定めた技能検定の開発が課題。（京都府）

・ワークキャリアのための実践の一層の向上に加え、ライフキャリアの充実に力点を置き、小・中・高等部一貫したキャリア教育を実施するための土台作りが必要である。（佐賀県）

・児童生徒のキャリア発達を促す授業の構成、実施方針についての更なる研究が必要である。（金沢大学）

【特総研専門研究B-253（平成22年3月）研究成果報告書P161から一部編集】

・小学部ではキャリア教育と聞いただけで、「職業教育は小学部には関係ない」という意識が一部にある。どのようにしてキャリア教育を伝えていくのが課題。

・障害の程度が重度の児童生徒への取組など、当該児童生徒を指導する教員に対して、キャリア教育の概念が浸透していない現状。

## 教育課程企画特別部会 論点整理

### 2. 新しい学習指導要領等が目指す姿

#### (1) 新しい学習指導要領等の在り方について

##### (人生を主体的に切り拓くための学び)

○(略)子供たちに社会や職業で必要となる資質・能力を育むためには、学校と社会との接続を意識し、**一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す「キャリア教育」の視点も重要である。**学校教育に「外の風」、すなわち、変化する社会の動きを取り込み、世の中と結び付いた授業等を通じて子供たちにこれからの人生を前向きに考えさせることが、主体的な学びの鍵となる。

### 5. 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性

#### (1) 各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと、学校段階間の接続

##### ⑤ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育、特別支援学校

○また、特別支援学校においては、(略)特に、幼児児童生徒の発達の段階に応じた自立活動の改善・充実、これからの時代に求められる資質・能力を踏まえた、**障害のある幼児児童生徒一人一人の進路に応じたキャリア教育の充実**、知的障害のある児童生徒のための教科の改善・充実を図ることが求められる。

## 改善・充実の方向性

### ■ 幼稚部、小学部段階から、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達を促す「キャリア教育の推進」を明確にする。

・小・中・高等学校等に準じた改善の各教科等の改善・充実の方向性を踏まえた検討。

・キャリア教育は、キャリア発達を支援する教育であることの方針の具体を示す。

・キャリア教育は、育成すべき資質・能力を踏まえ、幼稚部、小・中学部、高等部段階から実施するものであることを踏まえ、展開例や留意点を示す。

### ■ 障害の程度が重度の児童生徒のキャリア教育の考え方について、キャリア発達の視点から示す。

### ■ キャリア発達の視点を踏まえた学習状況評価の充実。

### ■ キャリア発達を支援するためのカリキュラム・マネジメントの具体を示す。（教育活動全体への働きかける仕組み）